

『驛勢一覽 鹿兒島線之壹 (貳)』

明治 45(1912) 年 九州鐵道管理局營業課 刊

本『驛勢一覽』は、その「はしがき」によると「各駅貨客集散の状況并に地方隆替の傾向を窺知し兼て業務上の施設に資せん為め」、明治44年2月より編輯がはじまり同年9月に未定稿として完成を見たものである。翌45年1月の刊行。九州鐵道管理局管内の各線各駅について、位置と沿革や設備、運送取扱人、乗降や貨物取り扱いの内訳を記し、中核的な駅については、周辺の遊覧地、交通機関・人口や地域概況をも盛り込む。上掲の2冊はその鹿兒島線の部で、「壹」には門司駅から鳥栖駅まで、「貳」には久留米駅から鹿兒島駅までを収めている。

周知の如く、当時の鹿兒島線の八代駅ー鹿兒島駅

間は現在の肥薩線を経由するルートであった。矢岳トンネルの掘削等数々の難工事を経て人吉駅ー吉松駅間が開通し、青森より鹿兒島に至る鉄路が完成したのは明治42年11月。その2年後に編輯の本書には、人吉駅の「交通機関」の一つである「球磨川」について次の記述が見える。「人吉より八代迄十六里。僅に五時間を以て流下し、十二人乗にして賃金一人四拾銭なりしも、鐵道開通後は賃切の外取扱はず、一艘五円を要す。貨物輸送路としては重に木材を筏に組み流下するものにして、是亦現今大に其数を減じ、大部分は鐵道便に抛り輸送せられつつあり」。

解説：文学部日本語日本文学科 教授 米谷 隆史

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒 862-8502 (住所記載不要)
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒 862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096 (383) 2929 (代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

春秋彩

Shunjusai

vol.53
熊本県立大学広報誌
2020
Autumn



CONTENTS

学長あいさつ	2
特集 新型コロナウイルスと大学の取組み	3
後援会だより	7
活躍する卒業生	8
研究活動紹介	9
大学へようこそ・おすすめの冊子	10
大学の動き	11
生き生き元気種	14
未来基金・人事情報	15
熊本県立大学アーカイブズ	16

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

新型コロナウイルスと大学の取組み

昨年暮れ、中国・武漢市に端を発した新型コロナウイルス感染症は、またたく間に広がり、世界中のあらゆる社会活動・経済活動に深刻な打撃を与えました。この未曾有の危機の中で熊本県立大学でも、通常の講義が行えず、また各種イベントも中止になるなど影響が出ました。今回の特集では、本学がどのように取り組んできたかを紹介します。

例年ゴールデンウィークが明けた5月中旬頃は、1年生が大学の雰囲気慣れてきて、多くの学生のにぎやかな声が続いてきたところでしたが、今年は学生の姿が見られませんでした。また移動自粛の影響により阿蘇くまもと空港を発着する飛行機が激減したため、大変静かなキャンパスとなってしまいました。



建物の出入り口に消毒液を設置



感染防止対策を呼び掛ける看板を学内に設置



ソーシャルディスタンスを保つため、2人掛け席を1人掛けに



熊本県立大学学長

半藤 英明

Hando Hideaki

志賀直哉を読みましよう

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大が終息しない中、人間社会は四苦八苦しながら懸命に明るい未来を探し続けています。学生諸君にとって厳しい環境ですが、いわゆる遠隔授業は精度を高めていくでしょうし、将来の働く場が閉ざされることもないでしょう。予測不能な不確実性の時代には創意工夫の力で幸福の手がかりを見つけ出すことが人類共通の大切な目標となります。向学心を保って勉学に励んでください。

学生諸君のみならずインターネットやSNSをフル活用する今の時代、ちまたに言葉があふれています。しかしながら、私の感覚でいえば、悪口雑言のたぐいが目立ちます。しばしば世間は「表現の自由」を言いますが、それは何を言ってもよいということではありません。例えばヘイト・スピーチのような不道徳は「表現の自由」に値しない、無知の産物です。なぜ、こんな不道徳な状態になっているのでしょうか。

おそらく人間社会に「廉恥」が足りないのです。廉恥とは恥を知り、恥を厭う精神です。恥は人の価値観に基づき、正体がありま

せんが、ぜひとも掴み取るべきものです。一人ひとりを見れば足る者も多いかと思いますが、相当程度の言いたい放題が野放しである以上、社会としては不足しています。恥を知れば、自分自身の行動は抑制的に磨かれ、人格が向上し、ふるまいが洗練されるでしょう。廉恥は人格を磨くことにつながるのです。あらゆる場面において、言葉とは、表現とは、言いたい放題の無秩序ではなく、自身の節度およびプライドを映すものであってほしいと思います。

大正期の短編小説『小僧の神様』をご存じですか。廉恥を学ぶのによい小説です。鯨を食べ損ねた小僧に同情して馳走することがかなった男の心に生じた「わだかまり」は、善行と思われる同情が真に善行であるのかと自己反省する、廉恥に基づく懐疑心です。廉恥は自身を振り返って人としての適性をはかる美意識です。小説の神様と呼ばれた志賀直哉の文章は、内容も表現も一流です。志賀直哉を読めば、端正で品のよい文章の持つ可能性に触れ、空疎な悪口雑言のたぐいを恥ずかしく思うようになるでしょう。志賀直哉を読みましよう。

■ 授業のあり方の模索

3月下旬には、熊本でも感染者の広がりが明らかになってきました。4月に入って通常の講義開始の延期が決まり、急遽学内の教員に向けての遠隔授業に関する研修を2回に渡って実施しました。

普段は350人定員の大ホールですが、間隔をとって座る必要があり90人ほどの出席者でいっぱいとなることをあらためて実感したところでした。

学生に対しては、通常4月上旬に開催するオリエンテーションについて、特設サイトを設置し、説明用動画にて各自確認できるようにしました。また遠隔授業に関する情報を一つにまとめた遠隔授業ポータルサイトを開設し、5月7日から遠隔授業(課題・レポート作成およびインターネット配信授業)を開始しました。

同時に遠隔授業を受講する環境を学生への調査も行い、自身で準備することが難しい学生への支援として、通信機能付きのタブレット端末の貸出しも実施しました。

緊急事態宣言解除後の、6月1日からは一部科目で対面授業も開始し、学生ロビーではパソコンを前にして授業や勉強に取り組んでいる学生の姿を多く見られるようになりました。



教員向け遠隔授業の研修の様子



総合管理学部黄教授による遠隔授業



3密を防ぎながら、対面授業を再開



学生ロビーでパソコンに向かう学生たち

■ 学生生活への支援



就職活動を支援するキャリアセンターでは、オンラインでの支援活動や、面接対策でもアクリル板での仕切り等で対応しています。



ベジチャージ@学食キャンペーン2020を開催。学生の野菜不足解消を目指して、無料野菜スープを弁当にセットして提供しています。



6/1の対面授業再開にあわせ、記念撮影ができるようグローバル棟に特設スペースを設置。学生に大学への想いを書いてもらいました。

チュータリングで語学カアップを支援しています！

4月に新設された国際教育交流センター内Global Loungeでは、専任のViorel Risteaコーディネーターによる英語及び中国語のチュータリングセッションを行っています。1回30分のセッションを1日6回開催しており、学生は英会話の練習やTOEIC®試験対策など希望するテーマに基づき、マンツーマンや少人数のグループでのレッスンを受けることができます。また、新型コロナウイルス感染症の影響から、5月からはオンラインによるチュータリングも始めました。これまで、述べ230回のセッションが対面またはオンラインにより実施され、受講した学生からは、「このような個人レッスンが無料で受けられてありがたい」との声が上がっています。



Global Loungeでは、今後もより多くの学生にチュータリングを活用してもらい、語学力のアップ等につながるよう、内容をさらに充実させていく予定です。

各所からマスクが寄贈されました



学生の授業参加時に必要な物資としてマスクを寄贈していただきました。

寄贈していただいた企業・団体

- アプライド株式会社 様
- 熊本県日韓交流協会 様
- 「熊本産マスクプロジェクト」 様

新型コロナウイルス対策にかかる寄附金募集中

本学では遠隔授業の開始に伴い、学生に対しタブレットの貸し出しを行うなど学修環境を整備に努めてまいりました。今回その環境をさらに充実させるため、熊本県立大学未来基金の枠組みを活用し、皆様から寄附金を募集中です。

これまで多くの方々に趣旨にご賛同いただいております。寄附の申込みに関しましてはP15をご覧ください。

教員からのコメント



熊本県立大学副学長
堀 裕昭

学生の安全を優先とする授業とは

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学生に安全な授業を提供するために、対面式授業では教室の学生数を収容人員の1/2~1/3に制限し、多くの科目で遠隔授業を取り入れてきました。今しばらくはこのような状況が続くと予想されるなかで、授業の方法に創意工夫を加えて、教育の質を落とさない取組みを進めていきます。

■ 本学のこれまでの動き

1/23	・国等の情報を基に、教職員及び学生に対し、新型コロナウイルスに関する注意喚起
2/4	・一般入試受験生に向けてのお願い (2/25前期、3/12後期)
2/27	・教職員に対し「新型コロナウイルス感染症への対応」について通知
3/3	・大学施設貸付の中止
3/5	・図書館における学外からの利用を制限
3/19	・令和2年度前期の授業公開講座中止を発表
3/22	・卒業式・学位記授与式(縮小での実施)
3/23	・令和2年度入学式を中止を発表
3/26	・第1回新型コロナウイルス感染症対策本部会議(以後随時開催)
4/6	・授業開始日を4/20に変更 ・新年度オリエンテーションを動画などで実施 ・サークル活動の中止
4/9	・「令和2年度前学期の授業実施要領」を制定(以後随時改定)
4/10	・遠隔授業における第1回学内FD開催(4/17第2回開催)
4/13	・5/6まで臨時休業(休校)を延長 ・学生に対し修学支援法(家計急変)に基づく授業料減免等を周知
4/28	・5/31まで臨時休業(休校)を延長
4/30	・遠隔授業に必要なタブレットの貸し出し開始
5/7	・遠隔授業の開始と一部の科目での実験実習を開始
5/11	・GlobalLoungeでのオンライン英語チューティング開始
5/21	・遠隔授業の環境が整備できない学生に対し、情報処理実習室を開放
5/26	・学生に対し、「学びの継続」のための学生支援給付金について周知
6/1	・対面による授業の再開、時間割を一部変更 ・学生食堂使用中止に伴い、野菜スープ付き弁当販売の実施(ベジチャージ@学食キャンペーン2020) ・学内の活動に限りサークル活動再開
6/25	新型コロナウイルス感染症にかかる寄附金の受け入れを開始
7/6	・令和2年度後期の授業公開講座における対面形式での実施中止
7/31	・前期試験(～8/11)
8/11	・WEBオープンキャンパスの実施
8/20	・学園祭「白亜祭」中止の決定



図書館の様子



卒業式・学位授与式



タブレットの貸し出し



講義室の座席表



学食での弁当の販売

NEW

熊本県立大学オープンキャンパスをWEBにて公開中

例年夏頃に開催をしていたオープンキャンパスは、新型コロナウイルスの影響で残念ながら開催を見送りましたが、新しい取組みとしてWEBにて公開しています。

学部の紹介ページでは教員の模擬授業が、また学生インタビューでは各学部にも所属する学生の生の声を動画形式にて紹介しています。

(オープンキャンパスサイト)
<https://puk-oc.jp/>



「新型コロナ学生生活支援金」を後援会だよりで給付しました!

新型コロナウイルス感染症の影響により、マスク購入や通信機器の整備等、予定外の支出が学生に生じていることから、後援会では令和2年度に限り「新型コロナ学生生活支援金」として、会員一人当たり5000円を給付しました。

給付にあたっては「3密」を避けるため、会場を学生食堂ホールとし、6月24日から2週間にわたり、会員2025名分を学部・学年ごとに分けて日程を組み、名簿と学生証で本人確認の上、手渡しました。

受け取った学生からは「アルバイトが出来ず不安な毎日だったので、ありがたいです」との声もありました。

未受領の方がいらっしゃいましたら、至急、後援会(学生支援課内)まで、印鑑持参の上、受け取りに来てください。

後援会では、この他にも各種資格取得や公務員対策講座、インフルエンザ予防接種費用への助成など、様々な支援を行っています。是非、ご利用ください。



活躍する卒業生



万一の際にお客様とご家族を助けるお守りを提案

日本生命保険相互会社
熊本支社 育成センタートレーナー

田畑 至織さん
総合管理学部総合管理学科2015年(平成27年)卒業

今の仕事内容

カタチのない商品を具体的にイメージできるように

日本生命に入社して現在6年目。入社して最初の3年間は、お客様一人ひとりのライフプランにあった保険をご提案する営業のお仕事を経験しました。形あるモノを販売する営業と違い、生命保険という商品は、カタチがありません。また、すぐに効果を発揮するものでもなく、お客様に万一の事があった際に初めてお役に立てる商品です。その為、お客様が持たれている漠然とした不安や希望を具体的にイメージしていただくことが難しく感じました。しかし、回数を重ね、少しずつお客様のご要望を明確にしていく事で、お客様との関係性を築くことが出来ました。将来の万一の際に備える生命保険は、お客様だけでなくご家族様への助けになります。

一人でも多くのお客様のお役に立てるよう、これからも取り組んでいきたいと思えます。

現在は育成センターのトレーナーとして、採用業務を中心に、選考関係や入社前の研修、インターンシップの運営、後輩の支援などを行っています。自身が営業の中で学んだことを学生さんや後輩へ伝える事はとても難しいですが、経験を元に、この仕事の大切さを伝えていきたいです。仕事は9割の大変さと1割の楽しさで出来ていると思います。私はその1割の楽しさを日々感じながら働いていきたいです！

後輩に伝えたいこと

自分次第で可能性は広がっていく！

「営業」と聞くと難しく感じる方もいらっしゃるかもしれませんが。私自身、学生時代は、話すことが得意なわけでもなく、就職活動の際は自分に何が向いているのだろうと悩みました。働く人に魅力を感じて選んだ今のお仕事ですが、営業を経験して感じたことは、特別な才能は必要ない、笑顔と前向きに取り組む姿勢があれば、自分次第で誰もが輝ける仕事だということです。

大学時代に経験した事は、勉強でも遊びでもアルバイトでも、今の仕事の中で沢山の方々とお話しする際の会話の題材として役立っています。直接的ではなくとも得た経験は、様々な形で将来へと繋がっていきます。チャレンジしたい！興味がある！という気持ちを大切に、可能性の広がる学生生活で沢山のことを経験してみてください。

政策が実施されるのは当たり前？ ～生活保護の政策実施研究～

コロナの感染が広がる中で、日本政府はさまざまな政策を打ち出してきました。PCR検査の件数を増やすとか、国民にマスクや10万円を配るとか、政策への賛否は人それぞれだと思いますが、一度決まった政策はきちんと実施されることが期待されます。しかし、みなさんもお知の通り、実際にはなかなかうまくいかない部分がありました。PCR検査の件数はそれほど増えず、マスクや10万円が手元に届くスピードは自治体によって大きな差が生じました。ここで注目してほしいのは、行政がけしからん！ということではなく、政策をきちんと実施するのが意外に難しいということです。

生活保護の政策実施

私は、主に生活保護を対象として政策実施を研究してきました。厚生労働省が作成した生活保護政策を自治体がどのように実施しているのに関心を持ち、自治体間の違いや時系列的な変化を分析しました。その結果、生活保護の資格審査の厳しさが自治体によって異なり、同じ自治体であっても時期によって変化していることが分かりました。生活保護の資格審査では、申請者の勤務先や銀行口座などを詳しく調査しますが、その平均的な調査件数が異なります。生活保護を受けやすい、あるいは受けにくい自治体が存在するという話は、以前からメディアなどで指摘されてきましたが、その事実をデータによって確認したことになります。

こうしたバリエーションはなぜ生じるのでしょうか。その原因は厚生労働省だけでなく、自治体の利害関係者にもあると考えています。政治家は福祉に寛容な方もいれば、福祉に厳しい目を向ける方もいます。また、自治体運営に責任を持つ幹部職員は、財政状況などを考慮しながら現場職員をコントロールしようとし

研究活動紹介

す。このような政治家の意見や幹部職員の管理といった見えにくいものを、できるだけデータで把握して分析することを試みました。その結果、首長や地方議員、幹部職員が生活保護の資格審査に影響を与えていることが分かりました。

ひとつの研究が終わると、さらなる疑問が浮かんできます。生活保護の資格審査の違いは住民にどのような影響を与えているのか。他の政策はどのように実施されているのか、生活保護との共通点と相違点は何なのか。最近では、保育政策の実施にも関心を持ち、複雑で分かりにくい政策実施の世界を少しでもシンプルに説明することを目指しています。

総合管理学部
講師 関智弘



プロフィール

神戸大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士(政治学)。平成30年より本学勤務。



ゼミでは地方創生や地域活性化について学んでいます。ゼミ生と一緒に山都町のジビエツアーに参加したときの写真です。



保育学用語辞典や保育関係の研究書に執筆しました

今年から赴任した新しい先生をご紹介します

Tanaka
kotaro



国際教育交流センター
田中 耕太郎 特任教授

<前任地> JICA カンボジア事務所

強い責任を感じて、燃えています!

今までJICAで、アジア(カンボジア、インド、インドネシア等)、中東を担当していましたが、6月より、本学と熊本県庁を兼務しています。気持ちのよい方々と率直に意見・闘魂を交換し合う、ワクワクの毎日です。

将来の世代に、希望に満ちた日本を残したいという思いを強く持っており、最重要テーマのグローバル(地方の国際化)に携われることは、本当にありがたく誇りに思いますし、強い責任も感じて、メラメラ燃えています。

Takahama
Shinsuke



総合管理学部
高濱 信介 教授

<前任地> 熊本県企画振興部交通政策課

県との繋がりを生かしていきます!

県庁で25年間勤務し、この4月、総合管理学部教授に着任しました。県では熊本地震で被災した豊肥本線や南阿蘇鉄道の復旧、天草の観光振興、水保病対策などに携わってきました。これまでの経験や県との繋がりを生かして、教育活動、研究活動、地域貢献活動などに取り組みたいと考えています。

新型コロナウイルスや豪雨災害など困難が続きますが、明けぬ夜はありません。成長の糧にして、一緒に乗り越えていきましょう。

おすすめの一冊

『Environmental Impacts of Ecotourism』

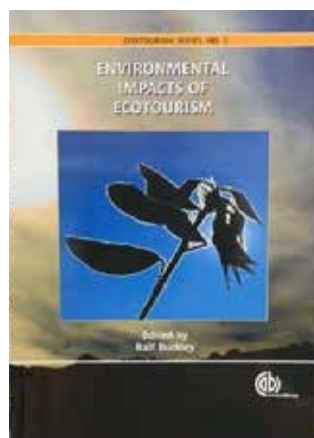
Ralf Buckley 著

出版社: Cab Intl ISBN:978-1845934569

エコツーリズムがもたらす環境への影響

観光は経済的かつ社会的効果をもたらす反面、環境に大きな悪影響を与えがちです。エコツーリズムは、環境保全を基本としたツーリズムであり、個人と自然を結び取組みです。例えば、ハイキング、マウンテンバイク、キャンプなどがありますが、これらの企画側は本来の意味を理解していないケースが多いです。そのため、環境に対する観点と自然保護について考えさせてもらう必要があります。

こちらの本ではエコツーリズムの実例を紹介するだけでなく、研究をレビューし、今後のエコツーリズムのあり方で考察しています。同時に、エコツーリズムに関する疑問に答えようとしています。「グリーンのある」目的地はどのようにつくるべきか、「質的な」ツーリズムは「グリーン」なツーリズムと何が異なるのか、エコツーリズムについて世界普遍的に勉強したい人にオススメの一冊です。



環境共生学部
環境資源学専攻 准教授
モロージェフリー

大学の動き



月出小学校3年生の「総合」の授業に講師を派遣しました

6月30日、近隣の月出小学校からの依頼で、大学から講師を2人派遣し、3年生の「総合」の授業にて「県立大の成り立ちと国際交流について」というテーマで講師を務めました。

前半は、航空写真や学内風景のスライドを使って、県立大と月出小学校の位置関係や県立大の歴史、大学の授業の様子などをわかり易く説明しました。

後半は国際教育交流センター(CIEE)のViorel Risteaコーディネーターが、英語を使ったゲームなどを実施しました。講話の際は静かに聞いていた児童達も、ゲームの際は大きな声で元気一杯に活動しました。

最後に、児童代表から丁寧なお礼の言葉をいただいて、授業が終了しました。今後も、「総合」の時間に県立大、日赤、健軍川のことを勉強していくと伺いましたので、協力、応援していくことにしています。



熊本県教育委員会と連携協定を締結しました

これまで県立大学と県教育委員会は、平成19年(2007年)に高大連携に係る協定を結んでいましたが、近年地域を取り巻く社会情勢の多様な変化を踏まえ、グローバルな視点を持つ地域人材の育成を図る必要があるとの共通認識から、今回新たな連携協定を締結し、熊本県の教育の一層の充実を図っていくこととしました。

6月25日に県庁で開催された協定締結式では、蒲島郁夫知事の立ち会いのもと、本学の白石隆理事長、県教育委員会の古閑陽一教育長が協定書に署名しました。

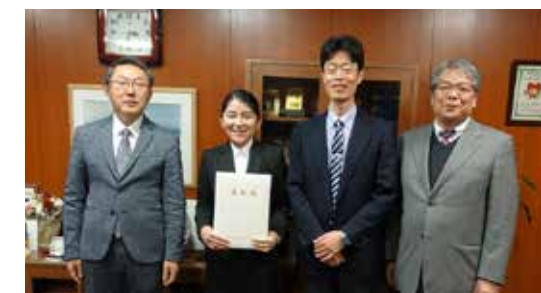
今後はこれまでの連携した取組みに加え、熊本県の英語教育の向上について、今年4月に本学に新設した国際教育交流センターを中心に、助言や支援等を実施していきます。



本学環境共生学部の学生が「全国栄養士養成施設協会会長表彰」を受賞しました!

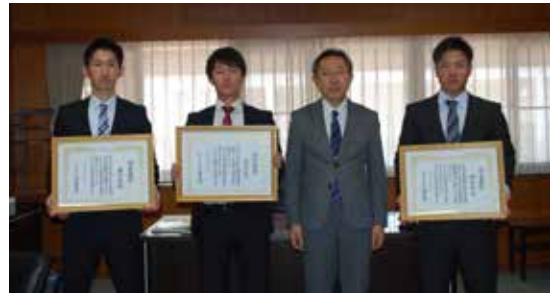
「全国栄養士養成施設協会会長表彰」とは、栄養士課程または管理栄養士課程を優秀な成績で卒業する学生を対象に、一般社団法人全国栄養士養成施設協会が毎年表彰をしているものです。

昨年度、本学では環境共生学部食健康科学科4年(当時)の倉本奈都美さんが推薦により選ばれ、半藤学長から表彰状が授与されました。



課外活動優秀者等表彰式を行いました!!

3月17日、課外活動優秀者等表彰式を行いました。
この表彰は、「熊本県立大学課外活動優秀者等表彰規程」に基づき行われるもので、全国的規模の競技会等で、優秀な成績を収めた個人・団体が対象となります。
今年度の表彰者は以下のとおりで、半藤英明学長から、表彰状と記念品の楯が授与されました。



(個人)総合管理学部総合管理学科4年 藤川祐誠さん(写真左)
2018年度ボクシング全日本バンタム級新人王を獲得。

(個人)文学部英語英米文学科2年 緒方空澄さん(写真右)
大学軟式野球日本代表に選ばれ、令和元年(2019年)12月にグアムで開催された国際親善大会に出場。

(団体)軟式野球部(部長 文学部日本語日本文学科2年 門田優弥さん)(写真左から2番目)
2019年九州リーグで優勝し、全国大会や西日本大会に出場。

※ 学年は当時

熊本県立大学研究成果報告会 卒業設計展『熊本の未来は描けたか -熊本県立大学 高橋研究室の挑戦-』を開催しました

2月15日、本学の大学会館(学食)において、熊本県立大学環境共生学部卒業設計展『熊本の未来は描けたか-熊本県立大学高橋研究室の挑戦-』を開催しました。

熊本県内外の大学生、高校生をはじめ、遠くは宮崎、福岡からもご来場頂きました。また、県内建築関係や設計事務所等の社会人、卒業生の方々の参加も見られ、7時間に及ぶ卒業設計展は、盛況のうちに終了しました。

来場して頂いた高校生や大学生、一般の方々の真剣なまなざしと、時間をかけ作品の意図を読み解こうとする真摯な姿が見受けられました。



総合管理学部本田研究室の 松坂空香さんが 学生論文コンテスト「第1回 JHPS AWARD」で 優秀賞を受賞しました

JHPS AWARDとは、慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター(PDRC)が、パネルデータ(同一標本について複数期間に渡り継続的に調査したデータ)の利用拡大と大学生における学術研究の促進を目的として行う論文コンテストです。この中で総合管理学部4年(当時)の松坂空香さんの研究論文「ライフステージで捉える共働き夫婦の課題」が、最優秀賞に次ぐ優秀賞に選ばれました。

松坂さんの所属する本田研究室では、統計がデータと統計学・計量経済学を駆使して、様々な社会科学に関する諸問題の実証分析を行っています。松坂さんは卒業論文研究として、ライフステージごとに夫婦間の意識や家事・育児分担等がどのように変化していくかを明らかにすることを試みました。個人の行動を長期間に渡って把握できるパネルデータの特性を活かし、結婚期間に応じた経年的な変化の推計を視覚的にわかりやすく図示・考察している点が多く、審査員に高く評価されました。



オンライン「授業公開講座」を 試行しています♪

本学では、地域の方々が大学に来て、学生と一緒に大学の正規授業を受講する「授業公開講座」を実施していますが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、休止となりました。そこで後期からオンライン型の「授業公開講座」をトライアルとして実施しています(すでに申込みは締め切りしました)。順調に進めば来年度以降正式に開催する予定です。

第7回アグリテックグランプリで堤教授のチームが最優秀賞を受賞



9月26日に開催された第7回アグリテックグランプリ(主催:株式会社リハネス)において、環境共生学部の堤裕昭教授が所属する「eco-Bubble®開発チーム」が最優秀賞に輝きました。

アグリテックグランプリは、リアルテック領域(食、農、環境、水資源、バイオマス等)の技術シーズと起業家の発掘育成を目的としたビジネスプランコンテストで今回は349チームが応募しました。

今回の受賞は、堤教授のチームが開発したマイクロ・ナノバブル発生装置が、水中で超高濃度溶存酸素水を低コストで作成でき、これを使って植物を栽培すると、夜間も昼間と同程度の代謝活性を維持し、成長が著しく加速されるというものです。今後、国内外での食糧の安定的な供給と増産につながっていくと期待されています。

令和2年豪雨への大学の取組みについて

熊本県立大学では県南の被災地の復興を全力で支援していきます

○ 学生たちによるボランティア活動

災害直後の7月中旬、学生とJICAの青年海外協力隊OBらが人吉市内でのボランティア活動を行いました。また総合管理学部の学生で組織する「KUMAJECT」でも活動を行っています。



○ 食べて応援「人吉・球磨」

現在、学生食堂では通常のメニューを中止し、お弁当の販売を行っています。7月下旬のお弁当では人吉球磨地域の特産物「きくらげ」を入れて提供しました。

また毎月1回開催の食育の日のイベントなどでも、人吉球磨の郷土料理メニューを提供し、人吉・球磨を「食べて応援」しています。



○ 人吉球磨地域の自治体と連携

10月上旬、本学の白石隆理事長が人吉市と球磨村を訪問し、被災地域の自治体と意見交換を行いました。これから被災地の復興に向けて、本学の専門的な研究・知見や人材を提供していきます。



生き生き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



雨の中行われた県内の大学との2019年学定戦。合図と共にスタートを切った瞬間

水泳部

水泳部 部長 伊東 翼(総合管理学部3年)

2018年創部！ コロナ禍の中でもベストタイムを発揮！

水泳部は一昨年5月に同好会を設立し、昨年12月にサークルに昇格した新しいサークルです。私は水泳をずっとしていたのですが、県立大学に入学した際に水泳部がなく、大変残念に思いました。そこでSNSで水泳部設立を呼びかけたところ、賛同するメンバーを募ることができ、部を立ち上げることができました。

現在、部員は3年生10名、2年生10名、1年生5名の25名、男女比は半々です。今年の新入生勧誘はPUKPUK(新入生オリエンテーション時に配付する学生自治会が制作する冊子)やSNS動画、インスタで行いました。部員には全国大会を目指すような人から、健康維持のために水泳を始める人もいます。

授業がある時期は週2回、長期休み中は週3回程度活動を行っています。大学のプールでの練習はもちろん、冬場は筋トレや公共施設での自主練の成果を報告し合っています。他大学水泳部との交流を含めた練習もしています。部活動そのものも水泳部の魅力ですが、チームとしての一体感がいいことも魅力の一

つです。新入生歓迎や卒業生送別、テスト終了後などに行う飲み会などのレクリエーションも部員の楽しみとなっています。歴史のまだ浅いサークルはありますが、今後も長く集えるサークルにしていきたいと考えています。そのためにも、練習メニューや企画を後輩に託すこともしています。新入生の中には、大学選択の際に水泳部があることが県立大学を選ぶきっかけとなったという人もおり、大変うれしく思いました。

最近7月末にあった熊本県選手権水泳競技大会に参加しました。新型コロナウイルス感染症の影響で大会中に感染防止策を十分に講じなければならず、今までとは違った大会でした。それが心身への負担にもなりましたが、その中でも2・3年生はベストタイムを出すことができ、新入生も満足のできる成果を上げることができました。また、全国国公立大学選手権水泳競技大会への参加を目指していましたが、今年度は中止となってしまいました。今の時期、部活動中でも感染防止策をとらなければならないなど、気を遣う部分はありますが、部員のやる気を支えにしながら今後も水泳部の全部員で充実した活動に取り組んでいきたいと思っています。



熊本県立大学未来基金への御協力に心より御礼申し上げます

未来基金寄附者御芳名 (2019年度実績)

個人:10件、法人・団体等:3件、
古本募金:16件

500万円	西部電気工業株式会社
200万円	熊本県立大学同窓会紫苑会
50万円	一般財団法人未来会
1万円	上田 哲子
お名前のみ	田中 純二、陣内 ヒロミ、黒木 蒼之、 安田 公寛、花村 陽子
古本募金	庭月野 沙耶、花村 陽子、松浦 正、吉村 信明、 青木 朋子、内田 圭亮、渡邊 布威 古本回収ボックス(3件)

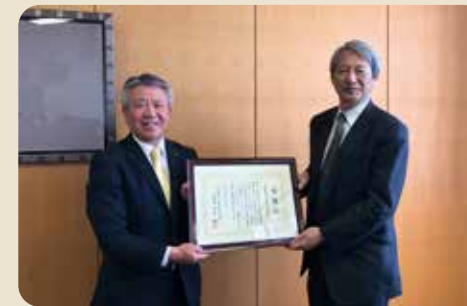
※お名前の掲載を希望されなかった方 個人4名、古本募金6名

基金創設(2009年9月)以来の寄附金総額は、
133,509,085円となりました。(※受取利息は含まない)

未来基金活用実績 (2019年度実績)

◆ 熊本県立大学奨学金の充実	7,865,000円
学生支援	西部電気工業奨学金 3,840,000円 同窓会紫苑会奨学金 2,000,000円
海外留学支援	短期派遣留学生支援奨学金 1,550,000円 小辻梅子奨学金 475,000円

引き続き皆様からの御支援、
御協力をお願い申し上げます



10年間の支援に対し感謝状を贈呈

熊本県立大学未来基金にこの10年間で多大な寄附を頂いた2つの団体に対し、今年3月本学の白石理事長から感謝状を贈呈しました。

西部電気工業株式会社 5,000万円

熊本県立大学同窓会紫苑会 2,000万円

(※金額は10年間の寄附金総額)

また同窓会紫苑会からは今後5年間で合計1,000万円の寄附申し出をいただいております。あらためて御礼申し上げます。

インターネットによる寄附も

受付開始!

クレジットカード決済、コンビニ決済が可能です。詳しくは下のQRコードにある「インターネットからの寄附はこちら」のバナーからお進みください。新型コロナウイルス感染症に係る寄附も受け付けております。



詳細はこちらへ →

人事情報

名誉教授の称号授与

<令和2年(2020年)5月18日>

- 元文学部教授 砂野 幸稔氏
(専門分野: フランス語・フランス文学)
- 元文学部教授 馬場 良二氏
(専門分野: 日本語教育)
- 元環境共生学部教授 有蘭 幸司氏
(専門分野: 食品安全性学)
- 元総合管理学部教授 森 美智代氏
(専門分野: 会計学)